

3 めざすべき将来像

(1) 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島

沖縄の自然と歴史、伝統、文化には、人を魅了し惹きつける力(ソフトパワー)がある。これらを劣化させることなく、次世代に引き継ぐことが求められている。

① 県民が望む将来の姿

- ・ 私たちは、沖縄らしい自然や風土の下、年間を通して温暖な気候とゆったりとした時間の流れの中で暮らしている。
- ・ 豊かな自然の残る美ら島では、青い海と白い砂浜が広がり、自然の海岸線が続いている。自然海岸と平行して連なるサンゴ礁により、イノー(礁池)の穏やかさが守られている。
- ・ 美ら島には緑豊かな森林が広がり、多くの固有種や希少種が生育する、生物多様性に富んだ自然環境が守られている。また、亜熱帯の花や緑は、島の美しさを一層引き立てている。
- ・ 沖縄らしい自然や風景を求めて、国内外から多くの観光客が訪れており、私たちに物心両面での豊かさをもたらしている。
- ・ 私たちは「自然は貴い資源」との考えを共有しており、環境に優しい社会づくりの意識は、最先端の地球温暖化対策など世界的な環境モデル地域を形成し、世界的にも注目を集めるエコアイランドとして情報発信されている。
- ・ 琉球王朝時代より培われてきた伝統文化や伝統行事等が連綿と受け継がれ、私たちの暮らしの中に息づいている。この独特の文化は、沖縄に暮らす私たちのみならず、世界中で活躍するウチナーンチュの意識と誇りの源となっている。
- ・ 私たちは、伝統文化を守り継承するのみならず、多様性と普遍性を受け入れ、新たな文化を創造している。

② 将来像の実現に向けて重視すべき要素

- ・ 沖縄の自然は、天賦の貴重な財産であることを認識し、豊かな自然を守り、持続的発展を志向する。
- ・ 沖縄は、'東洋のガラパゴス'とも称されるほど希少種が多く生息し、世界的にも希

有な自然の宝庫である。しかし、沖縄自身、地球規模で拡大する環境の悪化・破壊等の進行と無縁ではない。貴重な資産・資源である自然や風景等の劣化を抑止し、その保全と継承を図るため、沖縄を「環境フロンティア」として位置づける。

- ・ 温室効果ガスによる温暖化など、地球規模の環境異変・自然破壊が進行中、地球を救い、地域の自然を守る思想と実践の拠点として、「環境フロンティア沖縄」の形成を新時代のビジョンとして提示する。
- ・ 沖縄の自然と文化には人を魅了し、惹きつける力(ソフトパワー)が内在しており、これらが沖縄の自立経済推進においても重要な役割を果たす点を重視する。
- ・ 自然資源は、人間が自然を尊び、自然と人間生活が調和し、自然環境の破壊を防ぐことにより、無限のポテンシャルとなる。特に自然は大きなエネルギー源であることから、再生可能な資源の利用、クリーンエネルギー、新エネルギーの推進などにより「ゼロエミッション」を実現する。
- ・ 文化資源については、幾多の試練をも受けながら、独自の伝統文化や芸能、精神を失わず、これらを承継してきた沖縄の歴史に鑑み、先人の歩みと尽力、知恵に敬意を表し、その遺産もしくは資産を未来へ継承・発展させる。
- ・ 高度化・複雑化した現代社会における人間疎外、拝金主義等の諸相をも踏まえ、沖縄の歴史、伝統、文化の原点にある「人間主義」を改めて評価し、望ましい発展を図る。
- ・ 人間尊重の思想、真の豊かさをもたらし、人を昇華させる文化的精髓(エキス)など、人間性を失いかけた現代人への精神的処方箋となりうる沖縄文化の価値あるいは可能性を踏まえ、人間復興の島としての発展をめざす。

③ 基本的課題

● 自然環境の保全と再生・創造

- ・ 世界的潮流と同様、島全体の自然が大きく破壊されている沖縄の現状を踏まえつつ、世界に誇る豊かな自然環境を劣化させることなく次世代に引き継いでいくことが求められている。
- ・ 生物多様性は、人類の生存を支え、様々な恵みをもたらすものであり、その多様性を守る上で、干潟をはじめ水辺環境の保全は重要である。このことは、単に地域の課題に止まらず、国際的な潮流ともなっており、今後、干潟の埋め立てなど水辺の開発については、これまで以上に慎重であるべきであり、新たなルールづくりが課題である。
- ・ 島しょ地域という脆弱性にどのように配慮し、生物の多様性をどう確保していくかが課題である。特に、自然環境の保全を優先的に図るべき地域については、聖域化

に向けた検討が必要である。

- ・ 本土復帰後の急速な社会資本の整備をはじめとする様々な開発に伴い失われつつある沖縄独特の自然や風景・景観等を、どう取り戻していくかも課題である。

● 独特の歴史、伝統、文化

- ・ 沖縄の歴史、伝統、文化は連綿と受け継がれ、人々の生活の中に息づいているが、後継者不足等の問題もある。特に、離島など人口減少・高齢化が著しい地域での伝承が危ぶまれており、伝統・文化の次代への継承を社会全体で支えていくことが求められる。
- ・ 価値観の本土化や欧米化により沖縄の伝統、文化が大きく浸食されている側面もある。
- ・ 希薄な人間関係など現代社会が失ってきたものを踏まえ、歴史、伝統、文化等をどう守り、適切に継承・活用していくか。大切にすべき県民性をどのように守り活かしていくか。また、新たな文化をどう創造していくか等が課題である。

● 風景・景観、まちづくり

- ・ 急速な都市化の進展等により、多くの地域で豊かな自然や歴史に培われた沖縄らしい風景やまちが失われつつある。
- ・ こうした現状を直視しながら、伝統文化に育まれた沖縄らしい風景や景観を資源として再認識し、どう守り、創り、調和させていくか等が課題である。
- ・ 2030年の沖縄の老年人口割合は26%程度に上昇するものと見込まれており、高齢化社会に対応したまちづくり、むらづくりをどう進めていくかも課題である。

● 世界に誇れる環境モデル地域

- ・ 沖縄は、全国に比べて製造業の構成比が低い中で、電力の大半を石炭火力等に頼っていることや車社会等を背景に、CO₂の一人当たり排出量が年々増加し、今や全国でも高い水準にある。こうした中で、地球規模で課題となっているCO₂など温室効果ガスの排出量削減の取り組みをどう進めていくかが重要な課題である。
- ・ また、森林の水源涵養やサンゴ礁のCO₂削減等の機能をどう高めていくか等が課題である。
- ・ 島しょ圏 沖縄で人々が安心して暮らすためには、島しょ地域という環境負荷に脆弱で、閉ざされた地域において、環境と経済の好循環をどう構築し、持続可能な循環型社会を形成していくかが重要である。また、島しょ地域における国際的な環境モデル地域をどう構築すべきか等も課題である。
- ・ 世界では、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会システムから未だ脱却でき

ず、地球温暖化や森林破壊、大気・海洋汚染など地球規模での環境問題が深刻化している。

- ・ 地球温暖化は、海水面の上昇をはじめ、台風の大規模化、干ばつの増加、サンゴの白化など島しょ地域が真っ先に影響を受けるといわれている。沖縄が低炭素社会の実現に向けて、国際的なモデルとなるような有効な仕組みが構築できれば、そのモデルを発信することで、アジア・太平洋地域の島しょ国・地域への貢献が可能となる。
- ・ 今後のエネルギー需要予測を踏まえつつ、望ましいエネルギー需給構造の実現に向けて、省エネルギー・環境対策の推進、新エネルギーへのシフト等、エネルギー供給の多様化、さらにエネルギー供給システムの最適化が求められる。

(2) 心豊かで、安全・安心に暮らせる島

「心の豊かさ」「安全・安心」は、人々の暮らしの基本となり、万人が希求するものである。イチャリバチョーデー、ユイマールに代表される「沖縄の心」を活かし、心豊かで安全・安心な社会をつくり、次世代に引き継ぐことが求められている。

物質的な豊かさのみならず、生活の質や福祉の充実度を含め、県民の幸福度が高まる社会の構築を目指す。

① 県民が望む将来の姿

- ・ 私たちは、豊かな心と健康な体を持ち、平和で安全に暮らしている。誰もが生きがいを持ち続け、十分な医療や福祉が受けられ、世界一の健康・長寿を誇っている。
- ・ 沖縄は「健康・長寿の島」として、多様性に富む自然や伝統文化等の癒しの風土と、健康長寿を支える食文化とともに、世界中に発信されている。
- ・ どこでも、安心して子どもを生み育て、十分な教育を受けさせることができる。子ども達は「島の宝」として大切にされ、希望と喜びに満ち、地域社会の温かさの中で健やかに育っている。
- ・ また、性別、年齢、障害の有無等を問わず、地域、家庭、職場などあらゆる場所で活躍できるバリアフリー社会が構築されている。
- ・ 広大な海域に点在する島々では、それぞれの環境と伝統を尊重し、島特有の暮らしが守られている。島々の個性は、島しょ圏 沖縄の多様性と奥深さをもたらし、沖縄全体の価値を高めている。私たちは、沖縄を構成する一つひとつの島の暮らしが大切であることを共有しており、互いに助け合っている。
- ・ 長い歴史の中で培われてきた家族や地域との絆を大切にする文化や習慣は、肝心(チムグルル)、イチャリバチョーデー、ユイマール等の「沖縄の心」として受け継がれ、人の和、地域の和を大切にする社会を形成している。
- ・ 「沖縄の心」は、地域社会の一体感を醸成し、相互に協力し合うことで、共助・共創型の安全・安心社会が実現している。

② 将来像の実現に向けて重視すべき要素

- ・ 沖縄の人々は、古くから自然を敬い、生活の場、癒しの場として、現在、そして未来も、豊かな自然と共に生きている。そのため、恵まれた自然環境のみならず、人間が人間らしい文化が織り込まれている。この貴重な財産が、今後いつまで続いていけるか、極めて心許ない。
- ・ また、沖縄の自然、歴史、伝統、文化は、沖縄の最も大きな魅力として国内外から多くの観光客をひきつけ、大きな経済効果をもたらしており、沖縄の重要な資産となっている他、我が国、ひいては世界文化の多様性の一角を担っている。
- ・ 「心豊か」「安全・安心」は、万人が求めるものであり、人々の暮らしの基本となるものである。欧米の個人主義の価値観が浸透する中で、地域社会における人と人との絆の蘇生と子供を未来と地域の宝として捉え育むことが社会に求められている。イチャリバチョーデー、ユイマールに代表される「沖縄の心」に支えられてきた地域文化には相互扶助、人と人のつながりを通じて安全と安心を担保する社会的セーフティネット機能があることが再評価されている。
- ・ 安全で安心に、豊かに暮らせる社会装置は共助・共創型の「ユイマールモデル」として先進的なモデルになり得る。それは、沖縄で暮らす人々の生活に安らぎと生きがいをもたらし、特に、離島での安全・安心な暮らしは、離島の人口減少、少子高齢化の進行に歯止めをかけることができる。
- ・ 沖縄の伝統には健康・長寿の食生活が内蔵されている。生活習慣病等の疾病が増える中で、その意義が認められつつある。
- ・ 沖縄の地域文化に内蔵された「安全・安心」「健康・長寿」は、高次元のニーズであり、先進国の希求する要素の一つである。
- ・ 「心豊かで安心して暮らせる島」は日本をポスト先進国に導くことが可能であり沖縄イニシアティブとして世界に発信できる。
- ・ 沖縄の基地は過重負担となっており、安全安心の確保のために、全国並みの負担に軽減する。基地の事故・犯罪等のマイナス効用が大きく、沖縄の人々を不安に陥れている。人権が守られ、平等なパートナーになるためには、地位協定の改定が必要である。
- ・ 安全保障は基地というハードパワーで貢献するのではなく、中国との歴史的関係性や今時大戦で受けた甚大な被害というアジア諸国との歴史的共通性を活かし、危機管理、紛争解決等の緩衝地(バッファー)としての「東洋のジュネーブ」というソフトパワーで貢献する。

③ 基本的課題

● 安全・安心な暮らし

- ・ 核家族化の進展に伴う世帯の小規模化や高齢者世帯の増加、人間関係の希薄化等により、子育てや、保健・医療、老後の生活等に対する不安が高まっており、子育てしやすい仕組みづくり、健康・医療体制の充実等をどう図っていくかが課題である。
- ・ 良好な人間関係、安全・安心で心豊かな地域のコミュニティの力により、青少年の非行化を防ぐことも必要である。
- ・ 水やエネルギーをはじめとするライフライン等の生活基盤の整備、災害への対応、治安の維持・向上等をどう図っていくか。また、グローバル化の進展に伴い人々の行動範囲が拡大することによる感染症などのリスクにどう対応していくかも課題である。
- ・ 米軍基地から派生する事件、事故の防止や航空機騒音の軽減等のための措置をどう講じていくか等も重要である。

● 健康・長寿

- ・ メタボリックシンドロームや生活習慣病の増加等により、沖縄男性の平均寿命が全国上位ではなくなるなど、長寿県としての地位は揺らいでおり、「健康・長寿おきなわ」の復活が求められている。
- ・ 県民のライフスタイルや食生活の変化をどう改善し、生活習慣病等の予防につなげていくかが課題である。
- ・ また、健康・長寿の復活に向けては、県民と地域、学校、医療現場、大学や研究機関、行政等がどう連携していくかが鍵であり課題である。
- ・ 高齢化が進行し、高齢者世帯が増加する中、生きがいをもって健康で安心して年が重ねられる社会システムをどう構築していくかも大きな課題である。

● 地域社会

- ・ 人口構成や価値観の変化等に伴い、地域社会における人間関係が希薄化し、これまで地域コミュニティが担ってきた役割が変化している。地域に暮らす一人ひとりが地域から必要とされ、地域に貢献していることが実感できるような社会づくりが求められる。
- ・ 地域社会の再生は、暮らしの満足度を高める上でも重要である。このため、地域社会をどのように再生していくか、また住民と行政との連携をどう構築していくか等が課題である。